

ヨーロッパのEV視察レポート

株式会社東京アールアンドデー



目次

- ・ ドイツ ハンブルグ市 2025年6月視察
- ・ オランダ アムステルダム市 スキポール空港、中央駅 2025年10月視察
- ・ フランス パリ市 2025年10月視察
- ・ ベルギー ブリュッセル市 2025年10月視察
- ・ ルクセンブルグ ルクセンブルグ市 2025年10月視察

HAMBURG (Germany)





UITPサミット（公共交通展）訪問時、街中でも公共交通のイベントが行われていた。EVバス、EVタクシーなどが展示されていた。



市内には、EVバスが多く走り、バスの半数程度が既にEVバスであった。



展示会場のタクシー乗り場は、EV(PHEV、FCEV含む)とそれ以外の2つのレーンが出来ていた。



市内のトラックなども、小型などはEVが走り、街の大型家電ショップには小型EV、電動キックボードが売られていた。



市内には、多くの充電設備が整っていた。750か所（基、口数かは不明）



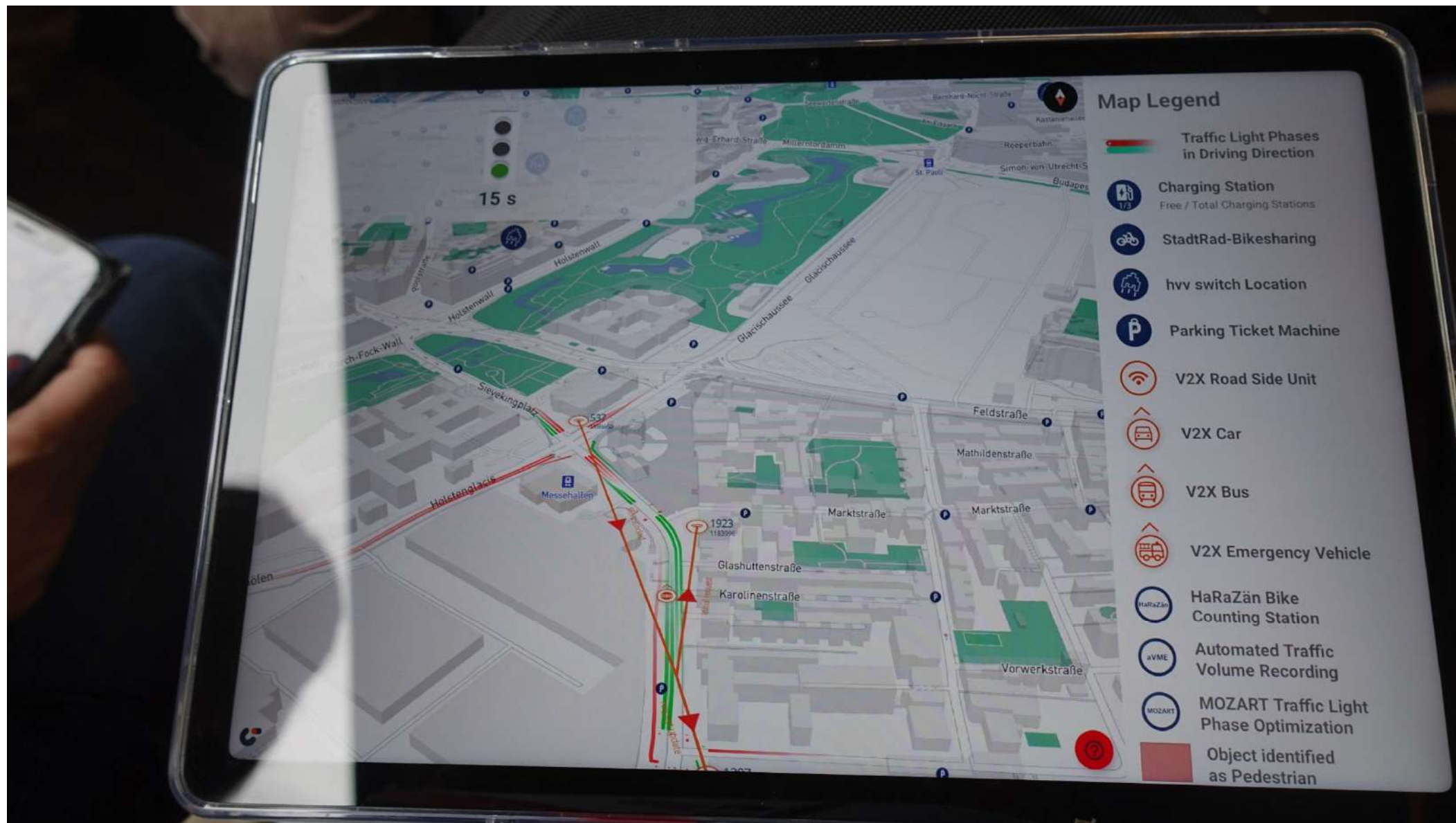
ハンブルグ市では、バス、鉄道、トラム、自転車、キックボード、フェリーなどの市内交通、充電器までを管理している。



郊外の複合サービスステーション。水素、ガソリン、バイオ燃料、ディーゼル、急速充電器、洗車機等が整っていた。



市内公共交通説明ツアーのバスはEVバス。



ハンブルグ市は、交通情報、信号、渋滞、充電器、及び公共交通の状態を市で管理、監視している。

ハンブルグ市 まとめ

- ・UITP（公共交通サミット）は、開催都市と一体となっていたイベントであった。
- ・ドイツは2023年より、国内公共交通の定額利用が始まった。Deutschlandticket（ドイツランドチケット）月額58ユーロ（約10,000円）で乗れる。
これ以上、道路インフラ建設を増やしたくないのと、渋滞、維持管理コストの削減が目的。
- ・ハンブルグ市は、6つの郊外鉄道、4つの地下鉄路線、200を超えるバス路線、8つのフェリー路線をもつ。そしてそれを管理する。
- ・市内のバスは1,500台。そのうち約半数が既に電動化（EV、FCEV）されている。これにタクシーを含め、2030年には全て電動化すると言うが、充電器は750か所（口数は不明）、水素ステーションも4開所あり、既に形になっている。
- ・市は、フェリー、鉄道、バス、自転車、キックボード、充電インフラ迄を管理している。
混雑時には、バスが通ると信号が青になるようだ。

AMSTERDAM (Netherlands)





空港乗り入れの大型バス、接続バスの殆どがEVバス。



ソラリス(ポーランド)、VDL(オランダ)、EBUSCO(オランダ)などのEVバスが多い。



空港のタクシーの殆どがEV。その車種も非常に多彩。





中央駅南側には路面電車(トラム・LRT)が走る。



中央駅北側2階のバス乗り場。殆どがEVバスで、パンタグラフ式充電器6基が設置されており、待機中に充電が行われていた。



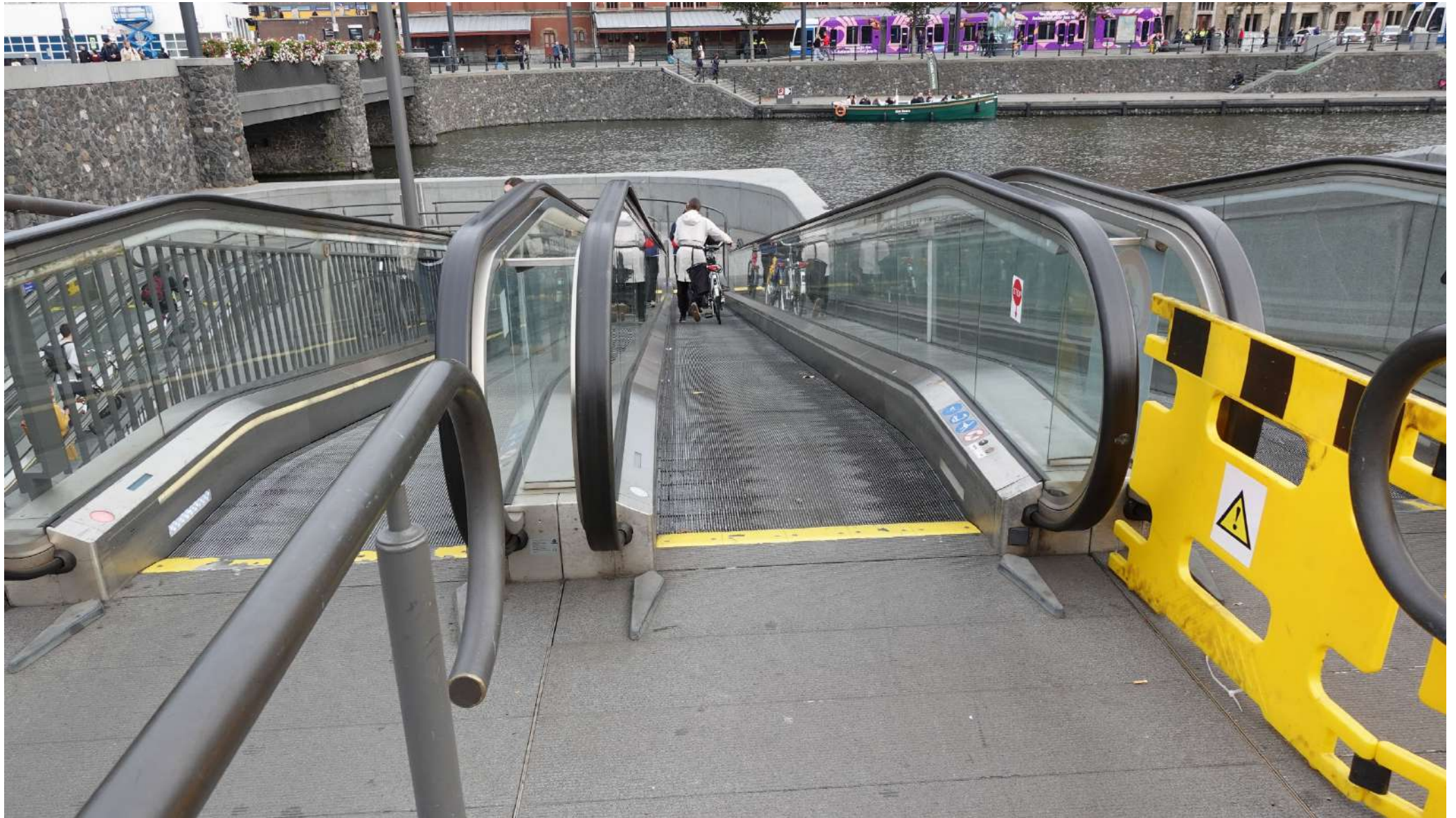
中央駅北側1階のタクシー乗り場。写真のタクシー全てがEVだった。



旧市街の運河沿いには、充電器が多く設置され、小型EV(欧州L6e)も多く見かけた。



中央駅付近にも小型EVが沢山走り、自転車、スクーター専用道も走れ、船にも乗る事が出来る。



自転車大国のオランダならではの、自転車駐輪場へ向かうエスカレーター。



アムステルダム まとめ

- ・オランダは、スキポール空港、アムステルダム中央駅付近、何れも接続EVバスが非常に多い。特に空港では80%以上のイメージ？
- ・タクシーも、空港、中央駅ともEVタクシーがほとんど。
- ・街中にも、EVも多いが、超小型EV(欧州L6e)が他の都市比べ多い。
- ・充電インフラも、空港付近には、急速充電、中央駅バス亭には、パンタグラフ式の急速充電、運河の周りには、普通充電器が多く設置されていた。

BRUSSELS (Belgium)





連接バスの多くはハイブリッドバス。



VDL(オランダ)、ソラリス(ポーランド)のEVバスもたまに見かける。



電動キックボードが散乱状態、小型EVトラック(欧州L7e)も走る。駅では、自転車をこぐとスマートフォンを充電できるエコ？な充電器が置かれていた。



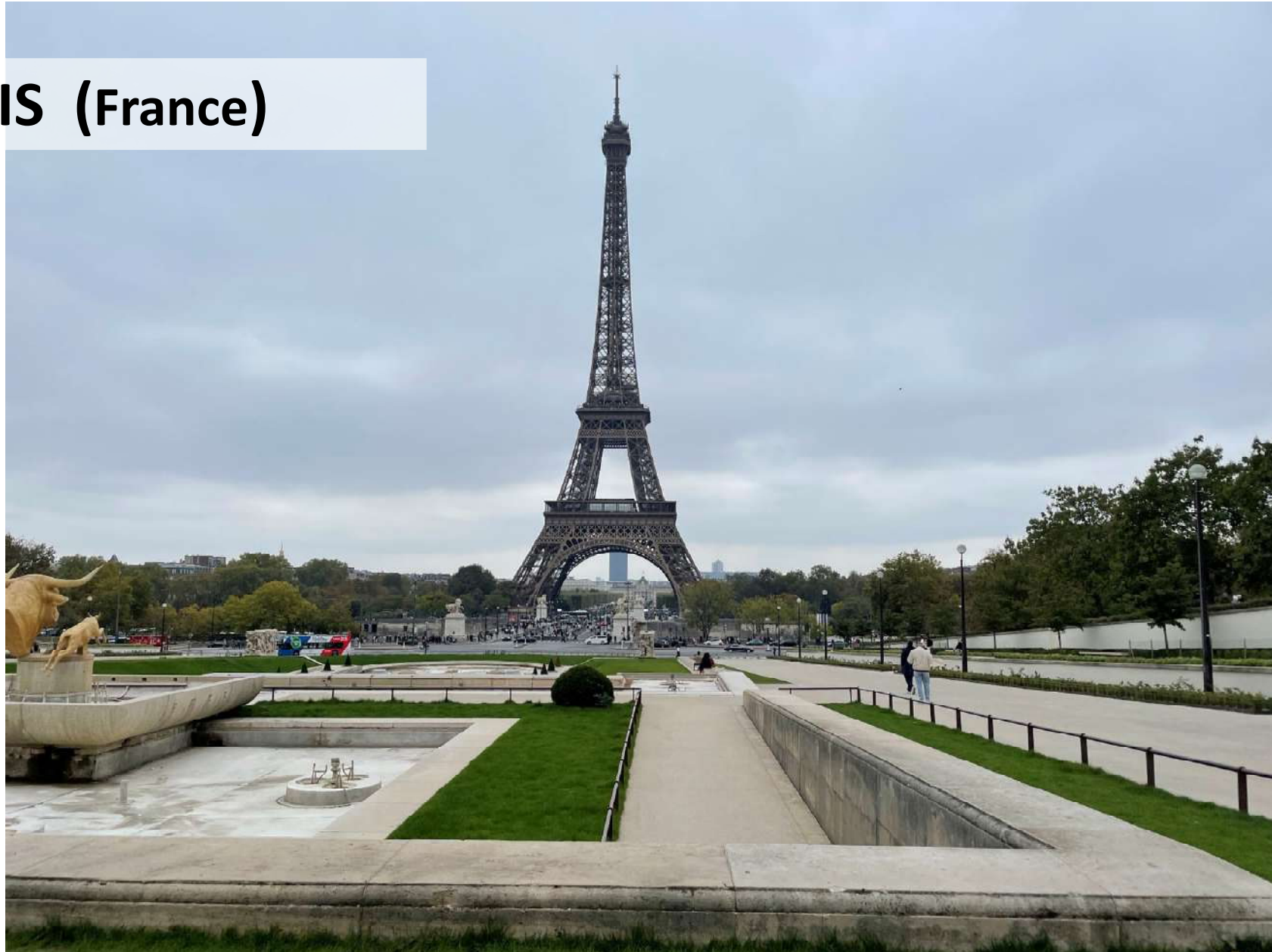
街で見かけたトヨタ・MIRAI (FCEV)。道端には充電設備が設置され、空港内車両の多くがEV。



ブリュッセル まとめ

- ・ブリュッセル市内は、他の都市と比較して、路線EVバスの比率は低い。連接のハイブリットのバスが多い。
- ・街中はEVも少なめだが、空港内には多く走っている。
- ・FCEVは殆ど見ない。
- ・市内には、駐車場などに普通充電設備が整っている。
- ・EVバス用のパンタグラフ式充電器も街中の停留所で見かけた。
- ・電動キックボードが多く、その置きかたのマナーの悪さが目立った。

PARIS (France)





パリ市内では多くのEVバスが2024パリオリンピック以降数多く走っている。



市内ツアーバスの多くがダブルデッカー(2階建)EVバス。



オリンピックで使われたと思われるトヨタ・MIRAIは、タクシーとして多く見かけた。小型EVや路地の充電設備、パリ市交通局のEVの作業車。



2年前の訪問の際には、多くのキックボードが走っていたが、見事に撲滅され、シェアサイクルに代わっていた。EVスクーターも多く見かけ小型EVトラックもたまに見かけた。



パリ まとめ

- ・パリ市内は、オリンピック後だからだと思うが、路線EVバスが非常に多い。
- ・これもオリンピックの後だからだと思われるが、FCEVのトヨタ・MIRAIのタクシーを頻繁に見かける。
- ・EVも比較的多いが、PHEVも比較的見かける。
- ・駐車場や路地には、充電設備が設置されているのを良く見かける。
- ・この2年間でキックボードが一掃され、シェアサイクルに代わった。

LUXEMBURG (Luxemburg)





駅前のキャパシター併用トラム。一部景観保護地域では架線が無く、キャパシターを動力源として給電なしで走る。公共交通は無料で乗車できる！



中央駅と旧市街の間の架線レス区間。約3.6kmは架線がない。



キャパシタートラムの室内。窓が大きく明るくカラフル。



連接のEVバス。写真は、メルセデスベンツ。



写真の4台全てのバスが電動。3台がEVで、1台がハイブリッド。
電動化率は非常に高い。



市内を走るEVバス。メルセデスベンツ、MAN、VOLVOなど。



高級ブティック街の歩行者天国にも、EVバスは入っていく。



タクシーのEV化率も高い。キックボードは見かけず、電動シェアサイクルを多く見かけた。EVも多く、EV充電器設置場所にエンジン車を駐車したらレッカー移動されていた。



ルクセンブルグ まとめ

- ・ルクセンブルグは、公共交通が無料である（トラム、バス等）。
- ・トラム（LRT）は、景観を重視する地区ではキャパシターを電源とし架線が無い。
- ・路線EVバスが非常に多い。EVバスは、歩行者天国も入っていく（動画あり）。
- ・EVの普及率も高い。
- ・街中にも充電設備をたまに見かける。
- ・キックボードは見かけず、シェアサイクルを多く見かけた。



お問い合わせ先: 株式会社東京アールアンドデー営業部
担当: 森竹 智法 (moritake.tomonori@tr-d.co.jp)
住所: 神奈川県厚 木市 愛甲東 1-25-12
電話: 046-227-1101
HP: <https://www.tr-d.co.jp/>